

# スマートローカル青梅

青梅市DX推進方針(Ver1.1)

# 背景と目的

## 社会的背景

スマートフォンやソーシャルメディアの普及等により、幅広い世代にインターネットの利用が浸透し、生活の多くの場面でその利便性を享受できるようになり、一人一人のライフスタイルにも大きな変化をもたらしています。

しかしながら、今般の新型コロナウイルス感染症対応では、各種助成金などのオンライン申請や教育分野のオンライン化環境が構築されていなかったことなどの行政デジタル化の課題が表面化し、社会全体の問題として認識されました。

そのような中、令和3年9月に、国はデジタル庁を設置しデジタル推進に向け本格的に動き出しています。

## これまでの取組み

令和2年10月から申請・手続き等のオンライン化を推進、また令和3年4月からは申請書・届出書等への押印見直し指針にもとづき、1,500を超える押印の廃止を行ってまいりました。

また令和4年度にあたっては、予算編成の重点事業の取組として「デジタル化の推進による行政運営」を掲げるとともに、DX推進担当の部署を新たに設置し、全庁一体となった取組を開始しています。

## 方向性

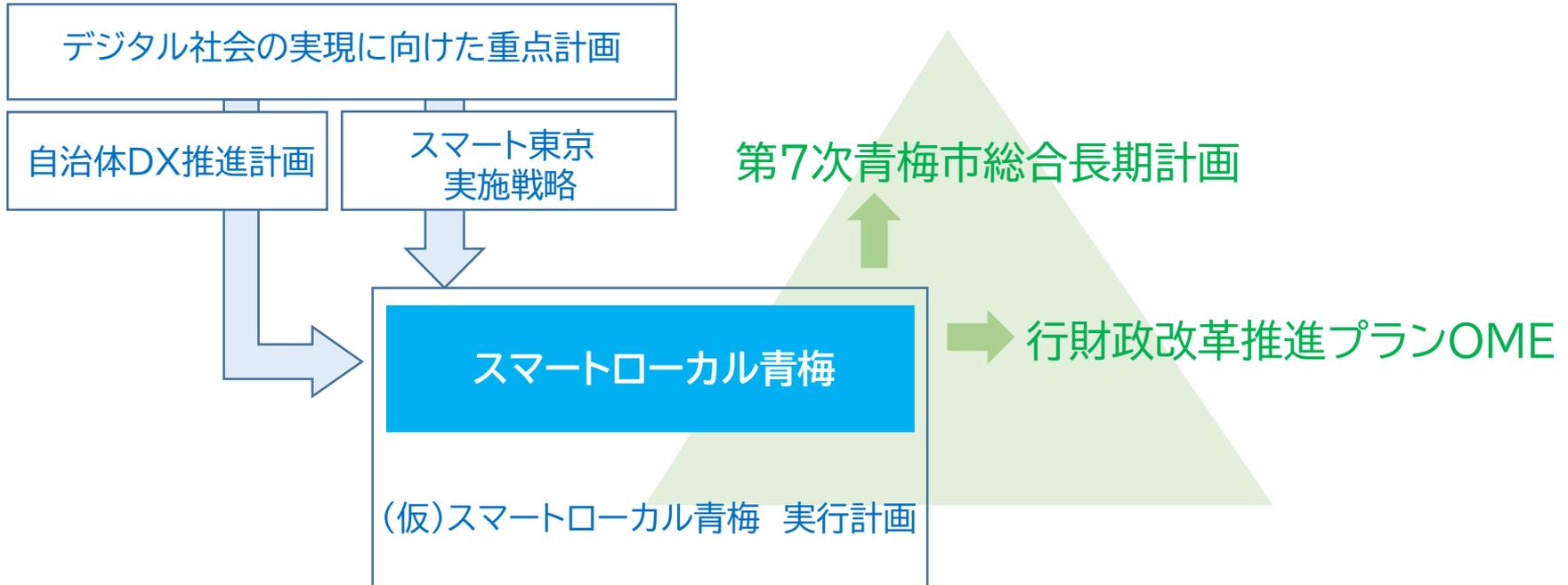
国はデジタル社会のビジョンとして、「デジタルの活用により、一人一人のニーズに合ったサービスを選ぶことができ、多様な幸せが実現できる社会～誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化～」を掲げており、東京都は「未来の東京戦略ビジョン」の目指すべき未来の姿の一つとして、デジタルの力で東京のポテンシャルを引き出し、都民が質の高い生活を送ることのできる「東京版Society 5.0『スマート東京』の実現」を掲げるなど、社会全体のデジタル化の推進しています。

また、国は「デジタル・ガバメント実行計画」における各施策について、自治体の情報システムの標準化・共通化などの自治体が重点的に取り組むべき事項・内容を具体化するとともに、支援策等を取りまとめ、「自治体DX推進計画」として策定し、デジタル社会の構築に向けた取組みを、全自治体において着実に進めていくこととしています。

このようなことから、青梅市においても、「デジタル技術、データ等の活用により、行政サービスにおける住民の利便性向上、業務の効率化等を図る取組であるDX(デジタルトランスフォーメーション)」による変革を推進し、地域全体のデジタル化と山里や川などを有する地域における豊かな自然と共生した地域づくり「スマートローカル」を目指し、そのための第1歩として、「市民が市役所へ来庁しなくても、各種申請ができるような環境づくり」を実現するため、本方針を策定いたします。

# 位置づけ

本方針は、「第7次青梅市総合長期計画」や「行財政改革推進プランOME」をDX(デジタルトランスフォーメーション)で補完するものです。



nature

美しい山と溪谷に抱かれ、東京に暮らす青梅

※第7次青梅市総合長期計画

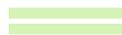


digital

デジタルの活用により、一人一人のニーズに合った  
サービスを選ぶことができ、多様な幸せが実現できる社会

※デジタル社会の実現に向けた改革の基本方針

コンセプト



スマートローカル青梅

市役所へ来庁しなくても、各種申請ができるような環境づくりの実現

# 「3つの変える」

### 行政サービスを変える

- マイナンバーカードの普及促進
- 行政手続きのオンライン化
- BPRの徹底(書面・押印・対面の見直し)

### 市役所を変える

- 情報システムの標準化・共通化
- 自治体AI・RPAの利用促進
- テレワークの推進
- DX人材の育成
- セキュリティ対策の徹底
- 電子会議・電子決裁・ペーパーレス化・キャッシュレスの推進

### 地域社会を変える

- デジタルデバイド対策
- オープンデータの促進
- 官民データ活用推進

働き方改革、新しい生活様式、誰一人取り残さないデジタル化

やってみる

チャレンジ、トライ、スモールスタート、「失敗を恐れず、まずはやってみる」姿勢

# 推進体制



## ワーキンググループ

…トップを課長級。メンバーはDXに興味があり、意欲のある若手職員で構成